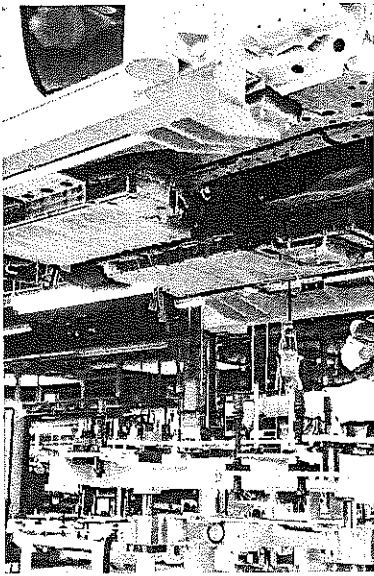


GX促進を重点に

経産省の来年度概算要求

充電設備など CEV関連は5倍

経済産業省の2024年度概算要求額は、脱炭素化に向けたグリーントランスフォーメーション(GX)促進などを重点に過去最高の2兆4615億円になった。グリーンエネルギー自動車(CEV)導入促進予算は、前年度当初の200億円から1076億円へと5倍に増やし、充電・水素充てん設備の導入支援予算も205億円へと倍増させた。蓄電池や部素材の製造基盤を強化するための支援経費も新規に盛り込んだ。



蓄電池や部素材の製造基盤を強化する

一般会計は前年度当初予算比22・6%増の4286億円。エネルギー特別会計(7820億円)や、経産省関連の「GX推進対策費」(1兆985億円)などを含めた要求総額は2兆円を超えた。CEV補助金では、50年力

ーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)の実現に向け、電気自動車(EV)など電動車両の普及に弾みをつけるため大幅に増やす。また、充電インフラの本格整備や、水素を大量に使う商用車向けを想定して水素充

環境省は、前年度当初予算比で2割ほど多い7875億円を要求した。自動車関連では「商用車の電動化促進事業」に前年度比2・5倍の341億円を計上した。補助対象車両にバスを追加したほか、充電設備の導入と電動車を一体で補助する。電動商用車の車載電池の再利用やリサイクルモデル構築に向けた実証経費も新たに盛り込んだ。

商用車の電動化促進事業は、経済産業省、国土交通省との連携事業だ。ディーゼル車から電動車に代替を促すことで商用車からの二酸化炭素

商用車の電動化2.5倍

環境省 補助対象にバス追加

環境省は、前年度当初予算比で2割ほど多い7875億円を要求した。自動車関連では「商用車の電動化促進事業」に前年度比2・5倍の341億円を計上した。補助対象車両にバスを追加したほか、充電設備の導入と電動車を一体で補助する。電動商用車の車載電池の再利用やリサイクルモデル構築に向けた実証経費も新たに盛り込んだ。

商用車の電動化促進事業は、経済産業省、国土交通省との連携事業として、水素内燃機関を活用した大型車などの開発・実証など、水素関連技術の開発支援などに関する経費を求める。

てん設備の開発や普及にも取り組む。蓄電池関連の要求予算額は5017億円。このうち、新規事業の「製造サプライチェーン(供給網)強靱化事業」に4958億円を、蓄電池などの商品力強化に向けた基盤

整備・実証事業に17億円を充てる。継続事業として「EV用革新型蓄電池技術開発」(24億円)、「次世代全固体蓄電池材料の評価・基盤技術の開発事業」(18億円)もそれぞれ求めた。半導体関連の予算要求額は1230億円だ。経済安全保障の観点から半導体サプライチェーンの強靱化支援として、新規に1078億円を要求する。また、半導体工場立地に伴う水需要の増加などに対応した工業用水道事業費を47億円と倍増させた。ラピダ

